

田原市議会傍聴記

地方政治 クリエイト 伊藤 秀昭

◎都市計画道路
赤尾昌昭氏(市民クラブ)は「都市計画マスタープラン」の改定期であり都市計画道路の見直しも同時に行っていくべきでないかと問題提起した。

◎土づくり
一期生議員の中神靖典氏(自民クラブ)は「日本一の田

当局は総延長33.09kmの整備率は約30%とし、マスタープランの中で「都市施設整備の方針」を示していくとした。

◎国民健康保険
杉浦文平氏(無所属)

50年後の田原の将来を見据えて

「渥美半島田原市産としてのブランド価値を高めるためにも健康な土づくりに取り組み」とした。

渥美半島の農業を支え、生きてきた中神氏の誇りが伝わるいい議論だった。

◎国民健康保険
杉浦文平氏(無所属)

約でもある低所得者層の負担軽減となるよう取り組んでいくとした。

国会では5月27日に、「持続可能な医療保険制度を構築するための国民健康保険法等の一部を改正する法律案」が可決・成立しており、平成30年度

少子化対策の前段階である結婚支援の取り組みについて質問したのは荒木茂氏(自民クラブ)。

健康福祉部長は社会福祉協議会などが中心となって行っている婚活イベントや、恋サポメール、結婚支援事業補助金などについて説明

夫婦の出生の問題や若者の結婚観にまで踏み込み、何とかしなければという雰囲気地方にまん延してきている。

目の前の課題だけでなく50年後、百年後のわが町を見据えて、人口減少の社会的要因にもっと目を向けるべきではない

大竹氏は「結婚のお膳立ても必要だが、結婚気運の醸成こそ必要でないか」と問題提起した。

荒木氏は「結婚の進む学校配置計画について、小規模校は将来の担い手育成には不適なのか、教育の効果は児童数や教員数で決まるのか、目の前の小規模校にできる対策を十分に

大竹正章氏(市民クラブ)は田原市で進む学校配置計画について、小規模校は将来の担い手育成には不適なのか、教育の効果は児童数や教員数で決まるのか、目の前の小規模校にできる対策を十分に

「学校配置計画は人口減少を前提にしており、人口増加策の創成戦略を検討していく事と矛盾しないか、高校生が

最後に苦言を一つ。二日目の傍聴に来られた市民が入り口を間違え議場に入り、傍聴席に来られてからも、閲覧用の議案綴りを無造作に破り取るような行動があったが、職員が即対応すべきでないか。

また、会議開始後は傍聴許可証を記入して勝手に入場する形になっているが、セキュリティの面からどうなのか、検討すべきでないか。



原市の農業の基盤は先人たちが育て上げた健全な土づくりにあり、これを大切な資産として引き継いでいかなければならない」と明確な論旨に沿って、化学肥料の多様化や堆肥の多量使用などを指摘した。

産業振興部長は

属クラブ)は安心して医療サービスが受けられることが市民の幸福につながるし、国民健康保険の現状と軽減策について質問した。

市民環境部長は市民の国保加入率は36.4%であるとし、市独自の減免を行っているが、新市長の公

◎結婚支援

結婚支援

二日間の田原市議会を傍聴し、船出し